

大学図書館による展示

SALA加盟図書館所蔵資料展示会

■跡見学園女子大学

<「今」女子大生が読みたい本とは! ? >

今回は、跡見生がブックハンティングに行き選んだ魅力溢れる本を多数ご紹介致しました。その本は、図書館に置くために跡見生がグループで書店内を歩き回り、入門書から専門書、実用書、今話題の小説など幅広くハンティングした本です。実際に書店に行く事で初めて出会った本もあり、またイメージしていた欲しかった本との出会いもあります。ブックハンティングした本は毎回、バラエティ豊かなラインナップで、大変に好評です。いつもは、館長の了解を得て図書館内の特設コーナーで展示をしています。

今回は特別にブックハンティングした跡見生のPOPと一緒に本を展示しました。また、当日は実際にハンティングしてきた跡見生が展示会場にて来場者に直接説明をし、更に映像や音による演出で本の紹介を行いました。

これによって今回の展示は、非常に関心も高く、来場者の知的好奇心を刺激するような空間となりました。跡見生の選んだ本が、ご覧頂いた方々へ、新しい知識や情報の獲得、そして新しい感性や創造力の醸成のために、お役立て頂けたと思います。



■埼玉医科大学

<医学生のキャンパスライフ>

お医者さんは私達にとって身近でとても重要な存在です。しかし、その卵である医学生がどのようにしてお医者さんになっていくのか、その過程はあまり知られていません。そこで今回は、医学生がお医者さんになっていく過程を少しでも知っていただきたいという思いのもと、医学部で学ぶ6年間を登山に見立てたポスターを作成し、実際に授業で使用されている教科書・参考書類とともに展示を行いました。カリキュラムは大学ごとに異なるので一例としてのご紹介でしたが、図書館関係者のほか、ご家族に医学生がいる方など多くの方にご覧いただき、「こんなに勉強をしているなんて大変だね」と感想をいただきました。

また、本学のカリキュラムを中心に小冊子も作成し、配布しました。展示の内容は本学図書館ホームページ内の「展示の記録」に掲載していますので是非ご覧ください。

【展示資料】

『内科学』朝倉書店

『日本人体解剖学』南山堂

『Essential 細胞生物学』南江堂 他
全 26 点



■芝浦工業大学

＜飛び出せ海外！つなぐれ建築ボランティア！＞

2017年4月に芝浦工業大学豊洲キャンパスに「建築学部」が新設されます。

注目が集まる「建築」分野。図書館では、建築分野でボランティア活動に携わっている学生団体「Infil(インフィル)」と協同し、Infil が作成した家を建てるまでの行程や現地の方々との交流の様子を収録したDVDや写真の他、建築やボランティアに関する図書館資料の展示を行いました。

Infil は、国際 NGO ハビタット・フォー・ヒューマニティに所属し、住宅支援を必要とする国に訪れ、現地の人達と協力し、住居建築を行っている学生団体です。

彼らのボランティア活動の様子をDVDでご覧になった方からは、家を建てる前に草刈り作業をしている映像に、「考えていたボランティアと違う」という驚きの声がありました。図書資料では、奇想天外なデザインの建築物が掲載された本が人気で、多くの方に好評でした。

今回の「図書館と県民のつどい」で、建築の面白さ、ボランティア活動に勤しむ学生の姿が、多くの方に伝われば幸いです。

【人気のあった展示資料】

『世界のおもしろい家』

『どんぐりハウス』

『死ぬまでに一度は行きたい世界の 1000 カ所 アジア・アフリカ編』



■城西大学

＜明治時代のくすり広告・紙看板＞

本学は、創立者・初代理事長水田三喜男先生が提唱した「学問による人間形成」を建学の精神として、昭和40年に創設されました。図書館では、薬学部で学ぶ学生たちへ電子ブック、電子ジャーナルといった最新の医療・薬学・栄養学を学習するための環境を提供していますが、歴史的考察の資料である漢方書や医学書に触れ、先人の叡智を学ぶことも「人間形成」の上で重要な事ととらえ、漢方古書資料を蒐集公開しています。今回は、このコレクションの中から、明治時代のくすり広告・紙看板、売薬版画、ポスターなどの実物と関連図書を展示いたしました。富山の売薬の土産だった色鮮やかな売薬版画や現在のチラシのもととなった引札などをご覧いただき、広告の面白さとともに時代背景にも関心を深めていただくことができました。

【主な展示資料】

- ・紙看板・広告「かねのなる木」「浅田飴」「仁濟家庭薬」「寶心丹」
- ・売薬版画「中村芝翫」「箱根躰仇討」「静御前飄舞袖」
- ・引札「福神鶴亀」「大阪軍記」「源平盛衰記」「中将湯」「解熱散」
- ・ポスター「リモナーデ」「薬用ベビーカロール」



大学図書館による展示

■東洋大学

＜写真で見る東洋大学男女共学 100 年＞

東洋大学は、1916（大正 5）年に専門学校令による私立大学としては、日本の教育史上初めてとなる女子の入学を許可しました。

1916 年、東洋大学に一人の女子学生が入学しました。貧しい士族の五人姉妹の二女として生まれた栗山津禰（つね）は、自力で生きるため教師になるべく、大学進学を目指します。その結果、東洋大学は私立の高等教育機関の中で、初めて男女共学を実現した大学となりました。

その背景には、創立者・井上円了の目指した「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を提供するという理念があります。

この精神が男女の差別なく学問する環境をつくりました。良妻賢母を目指すのでもなく、女性の特性を伸ばす教育に特化するのでもなく、男子学生と同等に、対等に、同じ学問をする。今でこそ当たり前のことですが、それは 100 年前に東洋大学がさきがけとなり、始めたことなのです。

今回の展示では、男女共学 100 年を記念して本学における男女共学の変遷を写真で展示すると共に、現在の東洋大学についても紹介させていただきました。



■ものづくり大学

＜世界文化遺産：ル・コルビュジェ「カップ・マルタンの休暇小屋」原寸制作＞

今年 7 月、上野の国立西洋美術館をはじめとする、フランスの建築家ル・コルビュジェの 7 カ国 17 の作品群が世界文化遺産に登録されました。

本学ではそのひとつ、仏伊国境の地中海を眼下に臨む「カップ・マルタンの休暇小屋」を現地調査し、製造・建設両学科の卒業制作でマイナス・ネジ 1 個から丸ごと 1 棟、学内に原寸で再現しました。

カップ・マルタンの休暇小屋は、ル・コルビュジェが最愛の妻へのプレゼントとして設計した別荘であり、亡くなる直前まで過ごした終の棲家でもあります。

今回は、本学に所蔵しているル・コルビュジェ関連の書籍と、休暇小屋の実測図面 220 枚を展示しました。この再現プロセスを通じ、学生が作りながら近代建築の巨匠の考え方や意図したものを手触りで学んでいった軌跡を見ていただける機会にできました。

国立西洋美術館についても、ル・コルビュジェの最初のスケッチで、すでに美術館だけでなく周囲をあわせた総合的な文化ゾーンの提案が見て取れるなど、新しい世界遺産を知っていただけたのではないかと思います。



■立正大学

＜江戸時代の街道と旅

～田中啓爾文庫より～＞

立正大学熊谷図書館では、地理学の大家であった田中啓爾(たなかけいじ)先生が生涯を通じて蒐集された江戸時代から昭和にかけての地図・和装本等の資料を所蔵しています。

今回は、開催地北本市と本学のある熊谷市が共に江戸時代より五街道の一つ中山道の街道であることから、所蔵資料より五街道に関する展示を中心に行いました。

その中で、「富士見十三州輿地全圖(よちぜんず)」や「五海道中細見記」といった道中図には、街道と各宿場名のほかに現代にも残る地名が細かに記されており、来場者が自身の地元を探すなど熱心にご覧になっていました。

また、本学が地域の資料として蒐集した中山道の宿場等の様子を描いた風景画の浮世絵「木曾街道六拾九次」は、現在は土手沿いの細道ながら当時は中山道だった熊谷の荒川付近の風景写真と見比べてもらったり、また浮世絵の解説としてやはり本学の名誉教授であり浮世絵の世界的研究者であった故山口桂三郎先生の文を添え、興味を持たれました。

他にも江戸時代の長崎出島を描いた所蔵品の「長崎和蘭陀(おらんだ)屋舗圖」の絵葉書や手作りのしおりなど持ち帰りのグッズも好評でした。

